

夏号 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜管理事務所
 連絡先 〒963-8876 郡山市麓山 1-16-17
 TEL 924-2194 FAX 924-2195

【みどりの教室】

- (1) 日時：令和8年9月12日(土)10:00~12:00
 場所：21世紀記念公園とんがりふれあい館ホール
 定員：20名(抽選)
 内容：季節のリースづくり
 受講料：2,000円
 募集期間：8月4日(火)~8月13日(木)
- (2) 日時：令和8年10月31日(日)10:00~12:00
 場所：21世紀記念公園とんがりふれあい館ホール
 定員：15名(抽選)
 内容：苔玉づくり、緑の相談
 受講料：2,000円
 募集期間：9月22日(火)~10月1日(木)

定員を超えた場合は抽選となります。

【みどり講習会】*受講料無料、予約不要

場所：とんがりふれあい館ホール

対象：記念樹交付申請者及び希望者

日時：令和8年9月27日(日)10:00~12:00

内容：モミジの年間管理

日時：令和8年10月25日(日)10:00~12:00

内容：冬の手入れ方法

*樹木医による園芸に関する講座です。

今年も夏至が過ぎ昼間の時間はゆっくりとですが短くなっていきます。しかし暑い夏はそこまでやってきています。自分で動くことができない植物にとっては大変な季節となります。でもその暑さの中で花をつける植物は鮮やかで華やかなものが多くあります。その色や香りで虫を引き付けて種をつけるのでしょね。また緑のカーテンをはじめそこに植物があることによって涼しさを感じることもできます。緑の働きは偉大です。夕方、庭に打ち水を行うと気化熱によってなおさらその効果がたかまります。



My ガーデニング

・・・季節のワンポイントアドバイス

【水やり】

梅雨に入り水やりが少しは楽になりました。しかし長雨が続き植物は弱ってしまう場合もあります。そして梅雨明け後の一気の暑さによってひどいダメージを受ける場合もあります。みずやりが大変なのは梅雨明け後です。その植物の状態によっては朝夕の2回必要になる場合もあります。時間帯も暑い日中は避けなければなりません。あげる水の量ですが鉢植えならば底から流れ出すくらいあげます。そうすることによって新鮮な酸素が根まで届くようになります。そして根腐れが防げます。庭植えの場合は根まで水が届くようにあげ

ます。しかし受け皿にいつも水がたまっていたり土が湿ったままているのも良くありません。乾燥させることも大事です。また水やりで失敗しないためには最初に植えこむ土が大切です。通気性通水性がよく適度に保水力があるような状態にすることです。これからの季節に家を空けるような場合は水管理が大変になります。自動灌水装置でもあればいいですね。

【植替え】

常緑広葉樹(ツバキなど)は今年の新芽が固まったころには移植は可能です。しかし適期ではありません。直ぐに暑い夏がやってきますからできれば秋の彼岸

過ぎまで待ちます。落葉広葉樹は 1 1 月頃まで待ちます。針葉樹は秋にも可能ですができれば翌春まで待ちます。鉢植えの場合は酷暑の間は避けますがそれ以外なら水管理は大事になりますが可能です。

【病害虫】

病気は予防、害虫は早期の退治が基本です。

* アメリカシロヒトリ

現在は依然と比べると発生は少なくなってきました。しかし 1 回目の発生が 6 月中旬にはみられウメなどの落葉樹に被害が出ていました。幼虫が広がる前でしたら薬剤散布で簡単に退治することは可能です。しかし放置したままですとまた初秋に 2 回目の発生が起こります。

* アブラムシ類、カイガラムシ類

多くの植物に発生する害虫です。葉や枝に発生しそこから樹液を吸汁して成長を妨げます。

特にサルスベリには発生しやすく被害が見られます。発生すると弱ってしまい早期の落葉もあり開花も少なくなってしまう。またアブラムシ、カイガラムシが発生するとその後すす病が発生します。見つけ次第ブラシなどでこすり落としその後薬剤散布を行います。

* イモムシ類、毛虫類

蝶や蛾の幼虫で多くの種類が存在し多くの植物に発生し被害が及びます。その種類によってはヒトがひどい痒みなどの被害を受けることもあります。抜け殻などでもそのような症状出ます。葉の裏についているイラガは葉と同じよう色をしているので目立ちにくく刺されて初めて気づきます。

* カミキリムシ、キクイムシ類

これも多くの種類が存在し被害によっては枯れてしまうこともあります。カエデ類につくゴマダラカミキリは 6 月中旬から成虫の発生が見られ枝がかじられ被害が出ています。見つけ次第捕殺をして被害を少なくします。特にシダレモミジに飛んできて食害して枝を枯らしてしまいます。

【剪定】

常緑広葉樹（ツバキなど）は可能ですが酷暑の時には控えます。そして枝を多く切ってしまう強い剪定は強い日光が幹まで届き日焼けを起こしてしまいます。落葉樹も同じように強い剪定は嫌います。マツ類は早めに新梢を切り詰めておくと、そこから二番芽が吹きます。どの樹種にも言えることですが、植物は夏に葉を茂らせるということです。なぜならばそれで暑さをしのぎ、光合成をして栄養分を蓄えるのです。そのことを考えて剪定を行います。さっぱりして月遅れのお盆を迎えるというのは今の猛暑日が続く気候では無理ですね。混みすぎた内側の枝や徒長枝を切り詰めるくらいにしたほうが無難です。

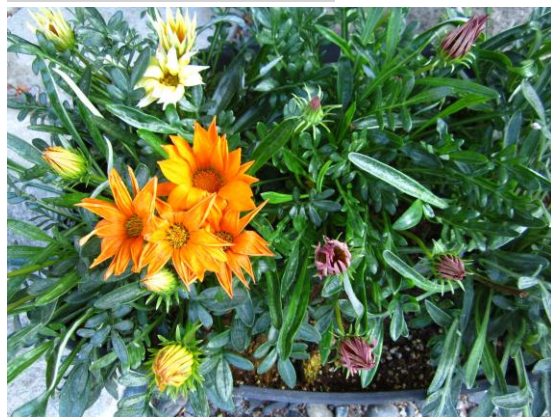
* 花後の剪定

サツキツツジは花が終わればすぐに刈り込み剪定を行います。そして少しの肥料をあげます。そうすることによって来年も綺麗な花を見ることができます。アジサイも花が終われば剪定します。花の下で葉の付け根に次の芽がある所の上で切るようにします。そうするとその芽が伸びて花芽となります。アメリカアジサイのアナベルはその年に伸びた先に花芽ができますのでそのままにしておいても大丈夫です。

【肥料】

暑い時期は一般的に肥料は控えます。あげることでかえって弱ってしまうことがあります。

この時季の草花 ガザニア



春から秋にかけて鮮やかな花が咲き続けます。日光があたると花が開きます。